

公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団セミナー

日本のナレッジでグローバルイシューへ挑め

～2025大阪・関西万博が世界を変える～

第1部「2025年万博の成功と関西経済」

<講師>一般社団法人2025年日本国際博覧会協会

理事・副事務総長 森 清 氏

2019年10月7日(月)

大阪商工会議所国際会議ホール

森 皆さん、こんにちは。博覧会協会では理事・副事務総長をしています森と申します。博覧会協会は、経団連の中西会長に協会の会長、りそなアジア・オセアニア財団の池田理事長には関西経済同友会代表幹事の立場で理事・副会長を務めていただいております、大阪府知事、大阪市長にも協会の理事になっていただいております。現在職員は約 110 名で、国からや大阪、京都など関西の府県・市からの出向者が約 60%、銀行・メーカーなど大阪・関西企業を中心とした民間からの出向者が約 40%、つまり公と民 6 対 4 の人員構成となっています。ただ愛知万博の時は最終的に 500 名を優に超えましたので、2025 年頃にはそれくらいの人員まで増えていくと思われます。幸い協会事務所がある大阪府の咲洲庁舎は空きがありますので、あと何フロアか借りることで、万博開催へ向けて万全の体制で突き進んでいきたいと思っております。現段階において 110 名ではあらゆることへの対応はできず、多方面の方へご意見を賜るプロセスを繰り返しており、それらのプロセスを通じて皆さまと一緒に良い万博にしていきたいと思っております。万博を他人事ではなく、ご自分のことと思っただけだと幸いです。本日集まってくださった皆さまに感謝を申し上げるとともに、この機会を与えていただいたりそなアジア・オセアニア財団さんに感謝申し上げます。

協会についてももう少し補足させていただきますと、協会は 1 月末に発足しましたが、今年の通常国会において万博に関する特別措置法が可決・施行され、その法律に基づき、5 月 31 日に、博覧会協会が万博を準備する機関、万博を実施する機関として指定されました。正式な実施機関として、我々はどのようなことを考えているかをお話させていただき、この機会にご意見を賜ればと思っております。

まず、万博誘致がなぜ関西なのかということをお話させていただきます。私は京都府宇治市の出身で、前の大阪万博の時私は小学校 1 年生で、2 回行きました。ダイダラザウルスという乗り物に乗った記憶が鮮明に残っています。1 号から 5 号まであって、4 号と 5 号は身長制限があって乗れませんでした。3 号に乗ったと思いますが、それだけでも震えあがり、こんなにすごいものが大阪、吹田にあるのかと感じました。また両親に聞くと、アメリカ館は行かず、ソ連館に行ったらいいです。何が言いたいかというと、関西の人は、大阪万博について、良きにしろ、悪きにしろ、大変インパクトを持っているということです。万博に対する特別な思い入れがある。関西に再び万博を呼ぼうと誘致を訴えておられる方には、潜在的に、70 年万博を見ていない子供世代にあの感動を見せたい、という強い思いがあるのではないかと思います。

万博と関西経済の推移についてお話したいと思います。日本全体に占める関西の人口の

割合は、ずっと 17%台で、少しずつ減りつつあります。一方で、関西経済の推移を GDP の日本全体で占める関西の割合で見えていきますと、過去 50 年で関西経済が日本経済の発展以上に伸びた時期が 2 回あります。1 回目が高度経済成長期の時で 17.5%から 20.5%まで約 3%ポイント関西の割合が上がり、そのときに大阪万博がありました。もう 1 回はバブル景気のときで、このときは平成 2 年に花博が開催されました。大阪万博や花博がこの押し上げにどこまで役立ったか分かりませんが、万博は関西経済にツキをもたらすラッキーシンボルということです。ここで 3 匹目のドジョウを目指したいというのが、関西全体の思いではないかと思えます。現在、インバウンドや新たなベンチャーが育ってきているなどの影響で、まだ公式統計が発表されていないこれまでの 2、3 年間は、関西経済の伸びは日本全体の伸びより上回ると予想されます。ただ万博は 6 年先ですので、この上回る状態を続けていけるよう、関西を盛り上げるお守り・シンボルとして万博を使ってもらい、関西の成長に貢献できたら、と思っております。

ただ、70 年の大阪万博では、関西の経済はよくなったあと、大きく落ちてしまいました。バイエリアで関西経済を牽引していた重化学工業が、オイルショックで大きく失速したことが大きな要因だと考えられます。もう一つのバブル景気のあとも、関西経済の割合は落ちました。パネルベイの崩壊と言われたのもこの頃です。

したがって、今回の万博においては重要な課題が二つあります。一つは、2025 年まで関西経済が盛り上がるということと、もう一つはその後もし引き続き盛り上がり続けるということです。重い課題ですが、あまりプレッシャーに感じず、若々しい勢いを持って乗り切っていくことが必要かと思っております。

万博の誘致に成功したあと、いろいろな方々に話を聞くと、「今度の万博は、プロデューサーや企画を担当する役割は、若い人にやってほしい」と決まって言われます。先ほど、関西の人口割合は少しずつ減っているという話をしました。「京阪神における年齢別・男女別の人口移動」の表をご覧くださいと、日本で人口の大移動が起きるのは 20 歳台で、京阪神でも 20 歳台に大勢の人たちが来て、また、大勢の人が出ていきます。日本では 20 歳台に民族大移動が起こり、いまは東京に集中しています。東京は出る人も多いが、入ってくる人のほうが多いのです。京阪神では、15~19 歳代は入ってくる人が年間で約 4000 人多い。これは大学、専門学校、最初の就職地として京阪神を選ばれる方々で、これは首都圏と共に京阪神の大きな特徴です。

もう一つ、不思議に思われるかもしれませんが、京阪神では、20~24 歳の女性だけで差

し引き 3574 人の転入超となっています。首都圏と京阪神以外では、福岡県と愛知県の 20～24 歳の女性だけが 500 人から 800 人くらいの転入超となっています。この表の京阪神とは京都府・大阪府・兵庫県を指しますが、実は大阪府が約 5000 人のプラスで、これだけ超過している地域は東京以外にはありません。一番の要因は最初の就職先として京阪神を選んでくださる女性の方が多いということです。大学に入られた人の関西居残り率は 56%となっており、44%は東京に行ったり地元に戻ったりするわけですが、これは男女であまり差がありません。ということは、この年齢層の女性は、居なくなる方を差し引いて余りあるほど関西に来てくださっているわけです。このように関西では残念ながら男性は 20 歳以降、女性も 25 歳以降はマイナスになっており、ここをなんとか関西に残ってもらいたい。こうした潜在的な思いが、財界や政治の方や市民の方の「今度の万博は若者中心にやってほしい」という言葉に表れているのではと思っています。

ただ、東京一極集中と言われますが、東京への転入増が定着したのは 2000 年に入ってからです。関西・京阪神はフラットで推移してきましたが、いまは上昇傾向にあり、なんとか盛り返すことができればと思っています。万博の経済効果は 2 兆円と言われていますが、これ以外に、心理的インパクトも非常に大きなものがあります。経済及び心理面のインパクトで、20 歳以降の男性、25 歳以降の女性の方々にも、関西で頑張ろうじゃないかという思いをつくりあげられればと思っています。

次に、万博会場の位置について説明させていただきます。万博会場は BAY（湾）にあります。このキタ・ミナミ・BAY の構図について、BAY はキタやミナミとは並び立たないだろうと皆さん、特に若い方から言われます。BAY には阪神甲子園球場があるという皆さんハッとされるのですが、今のところ BAY はバラバラです。東京で言えば、お台場も同じような悩みを持っています。

万博会場のある BAY をもう少し大きく見れば、関西国際空港、神戸空港、各種港湾施設があります。つまり、海外からモノや人が流れてきて、またモノや人が海外に流れていく結節点の役割をしているのです。その影響は京都や滋賀、奈良や和歌山、兵庫だけではなく、西日本全体に及びます。万博はこの BAY の中心辺りに位置しますが、この万博を通して、BAY と関西や西日本の各々の地域との関わりをつくっていきたいと思っています。

いま、関西の各知事や市長、企業の方々とお会いして、万博と奈良、万博と滋賀、万博と兵庫、万博と和歌山という話をさせてもらっています。おそらく 2800 万人ほどが来場し、その内約 350 万人は外国の方であろうと考えていますが、外国の方、特に欧米の方は、2 週

間、3週間は滞在するわけです。中国や韓国も、最近ではテラーメイドで、個人旅行で来る方が多い。その意味では、万博にも来てもらい、ほかのところにも行ってもらうという相乗効果を狙っています。

インバウンドが日に日に増えていますが、途上国を含めて世界では、観光業は GDP の 10%を占めると言われています。ところが日本の場合、観光産業は GDP の 6.5~7%程度で、世界的に見るとまだまだ発展の余地があります。もちろん京都の清水寺近辺などは観光客が溢れて困っているという状況がありますが、解決策もあると思います。京都だけではなく奈良や兵庫などいろいろな地域に観光のポテンシャルがありますし、長期滞在したいというニーズはさらに強くなってくると思われるからです。ぜひ万博会場を結節点として、インバウンドを周囲の地域と結びつける役割を担えればと思います。

もう一点は、万博で未来社会の実験場のようなことをしてみたいと思っているのですが、ベンチャーの方々、中小企業の方々を含めて、さまざまな企業の方々に万博会場を利用してもらいたいと考えています。そこで実証した成果を、国内はもちろん、これから益々発展していく東南アジアなどでも活用してもらいたいと思っています。

関西の何が一番いいかと申しますと、関西国際空港からはベトナムや中国、香港などへさまざまな便が飛んでいます。成田や羽田に比べると片道で1時間も早いということです。福岡はもっと早いだろうと言われるかもしれませんが、関西の国際便は福岡の3倍あり、ラインナップがある程度そろっているのです。

日本全体では中国人労働者数が最も多いのですが、関西では去年、ベトナム人労働者数が中国人労働者数を上回りました。その大きな理由として、関空のLCCではハノイ便だけではなくホーチミン便もあることが挙げられ、ベトナムの方は休暇があれば本国に戻りたいということで、よく利用されます。ベトジェットエアでは一番安い値段が片道約2500円で、彼らも十分帰れます。

何が言いたいかと申しますと、万博でいろいろな企業の方に集まってもらい、未来のことを対象としたビジネスを展開してもらいたいと思っています。そういう成果をBAYから海外に発信し、海外の優秀な人材を集めていただきたいと考えております。BAYでやるからには、万博をそのように位置づけたいと思っています。

では、万博は何をするのかという話に移りたいと思います。万博の誘致のときに、まだ万博を開催したことがないロシアやアゼルバイジャンは、一回くらい開催させて欲しいとアピールをしてきました。何回も開催している日本が誘致を勝ち取ることは並大抵のことで

はなかったと思います。どういうことを話したかという、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、人間をはじめ、生き物の命、都市の命、自然の命など、さまざまな命の解釈を打ち出して、アピールしました。これからの若い人が命の解釈をどうかたちづくっていくのかということで、若い方々にもいろいろ聞いていきました。このように「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで、誘致合戦を勝ちとった訳です。

もう一つは、先ほど少しお話しましたが、「未来社会の実験場」というコンセプトです。会場は海でセパレートされています。開催期間が185日、6カ月間なので、その期間中、及びその前後もあわせて、いろいろと実証をしてもいいだろうということです。アクセスとしては、いま地下鉄中央線の延伸計画があります。咲洲と夢洲との間に海底トンネルがあります。いまは車だけが通っていますが、このトンネルの中には鉄道を敷くためにつくった空洞が一つ余分にあり、線路を敷けば電車を通るようになっていきます。夢洲の中は地下になりますが、地下をぐるりと回って万博会場の北側の地下に夢洲駅ができることとなります。

いま、中央線は、朝は3分45秒ごとに1台運転しています。3分45秒をどこまで縮めるのかという議論はありますが、およそ3分ごとに夢洲駅に1000人ほどの方が降りるだろうという計算です。3分以内に、1000人の乗客を他の場所へ誘導してもらい、またそこに次の1000人が来る。そのような形で、会場に鉄道から入ってきてもらうというプランです。

もう一つはバスで、現在は2車線と2車線の4車線ですが、これを3車線と3車線の6車線にしたいと考えています。結構な数のシャトルバスが入ってくると思われるからです。身障者の方は別ですが、自家用車の場合はパーク・アンド・ライド方式を採用し、原則としてどこかの駐車場で降りていただいて、夢洲に入っていく方式になると思います。此花大橋の手前辺りまで高速が走っていますので、おそらく大量のバスがそのルートから来ると思われれます。一般道に入ってから、此花大橋や夢舞大橋を渡って、うまくいけば大阪駅から25分程度で来られるのではないかと考えています。混雑したときにどう対応するのかという対策も、いま考えているところです。

船についてですが、夢洲の北部、ちょうど舞洲の対岸にあたる部分に岸壁、埠頭を設けて、横づけで入ってもらうことを考えています。船の場合は停泊時間を3分とすることは難しいので、やはり一番多く人を運ぶ方法は、鉄道の3分で1000人というものになると思います。しかし夢洲の辺りは全部海ですので、船で来たいという人が相当数出てくると思われれます。船も重要な輸送手段にしたいと考えております。

次に、誘致の際に「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマと、「未来社会の実験

場」というコンセプトを掲げましたが、まず「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマについて説明させていただきます。

誘致のときに「いのち」を三つに分けて説明しました。一つは「Saving Lives」（救う）ということです。発展途上国は感染症やエボラ熱などの病気が原因で、平均寿命もまだまだ低いです。なんと言っても乳幼児の頃の死亡率が高いので、途上国などにはそういうテーマをとりあげたことで、心に刺さったと思います。健康寿命の延長のような場合は、「救う」に入るのか、次の「力を与える」に入るのか分かりませんが、このような健康に関する問題もございます。

二つ目の「Empowering Lives」（力を与える）は、万博にいらっしゃったら、健康で美しさを保つための気付きを万博会場にいる間にお渡ししようということをございます。「万博に来たら10年若返るような仕組みにしよう」ということをおっしゃっている方もおられます。AIやロボットとどのように付き合っ、我々のLivesに影響を与えていくかという議論も非常に重要です。

三つ目の「Connecting Lives」（つなぐ）は、人と人をつなぐというかたちで、異文化理解やイノベーションを創出するということです。万博は150カ国以上の人々に来てもらうわけで、Livesの概念からその国の特性に合ったテーマを設定してもらえたらと考えております。誘致のときに、各国からは、「さまざまな国に対応できるような仕組みを取り入れてください」という要望がございました。

次の、持続可能な開発目標（SDGs）ですが、2030年までに達成しようという課題が2015年に国連サミットで採択されました。貧困をなくそう、質の高い教育を受けられるようにしよう、安全な水とトイレを世界中に届けよう、働きがいも経済成長も手にしよう、住み続けられるまちづくりを目指そう、海のゆたかさを守ろう、平和と公正を全ての人に届けようといった17の課題です。

私が近畿経済産業局長として誘致活動に携わらせていただいた3年ほど前に比べると、いろいろな新聞で、1カ月に2回くらいの頻度で、17のSDGsのマークが載っています。SDGsと英語で言われていて分かりにくいのですが、日本社会の中でも、SDGsというものが徐々に知られてきていると思います。われわれが「いのち輝く未来社会のデザイン」を万博のテーマとして掲げたときに、諸外国では「このテーマって、SDGsそのものではないか」という話になりました。日本を含め世界全体で、SDGsに対する関心が高まってきたことが、ロシアやアゼルバイジャンを抑えて、日本が大阪・関西万博を勝ち取れた大きな要因で

はないかと思っています。

ただ、私も 1970 年の万博に行きましたが、子供が楽しめないと、2 回も 3 回も来たいとは思いません。もちろんこの SDGs は大事ですし、万博にも生かされるべきだと考えていますが、あまり説教っぽくならず、まず子供が楽しめるような展示を、各国、各企業、われわれも含めて、考えていかなければならないと思っています。

次に、コンセプトの「未来社会の実験」についてです。われわれは未来社会の実験を万博会場で行いたいと思っています。大学や企業、市民団体でもいろいろなことにチャレンジしている団体がありますので、そういう方々からどのようなかたちで未来社会の実験をするのがいいかを募集しております。いま挙がっているテーマは、例えばヘルスケアです。これは命そのものという意味ですが、ライフサイエンスやヘルスケアというテーマで、どんなことができるのだろうと関心を持っている方がいらっしゃいます。

例えば 1 日に 6、7 時間、万博会場に滞在されるとします。心電図の変化を 6 時間見ても、それほど役に立たないかもしれません。しかし血糖値は、食前、食後や長時間並んだあとなど、そのときによって変化します。現状では、肩にシップのような装置を貼りつけることで血糖値を測ることができます。そうした装置の技術を 2025 年に向けてどこまで進歩させられるかということはあると思いますが、例えば、会場で血糖値が計測できるリストバンドのような計測器を安い値段で買ってもらい、それを持って帰ってもらって、万博終了後も血糖値を気にしていただければ、万博を契機に健康習慣が変わるということも可能なのではないかと考えております。

それから、子供から大人までを含めた教育というテーマを掲げられる方もおられます。教育分野は現在大きく変わってきており、未来ではどのような教育が行えるだろうかと考える方がいらっしゃいます。さらに、食の未来というテーマもあります。飢餓や食料生産の問題など、途上国が抱えている問題もありますが、先進国の食も重要なテーマです。例えば、朝起きて早々に糖分の入ったジュースを飲むと血糖値が急激に上がりますが、将来健康で長生きするためにはどのような食生活をすればいいのかなどというテーマも考えられます。

また「大阪・関西で開催するのだからベンチャーや中小企業だ」と言う方も多いです。ベンチャー、中小企業でどのような博覧会にしていくのかはまだ分かりませんが、いくつかテーマを決めて、このゾーンはライフサイエンスをしよう、このゾーンは教育をしよう、食にしようというふうに、万博会場の中にテーマゾーンを作るようなかたちを実現できないかというご意見を頂いています。まずは、こうしたテーマ例を幅広く募集しているのが現状で

す。

そして会場全体でも「未来社会の実験場」ということをやろうと思っています。万博会場は155haあります。先ほど申しました新駅は地下につくられると思います。いま夢洲の南部分では大阪市さんが中心となって埋め立てが進められています。誘致のときから申しておりますが、水を全部埋め立てるのではなく、残して、水の景観を楽しめるウォーターワールドをつくり、それから、グリーンワールドとして緑地もつくることになっています。これら二つとパビリオンワールドから、2025年の万博は成り立つわけです。ウォーターワールドからは花火を上げたり、グリーンワールドには屋外のライブ会場施設をつくったりできないかと検討が進んでいます。その真ん中にパビリオンの区域があります。これら155ha全体を「未来社会の実験場」にできないかということです。

いま現在、どういうアイデアがあるかと申しますと、高度な移動システム、言ってみれば自動運転でございます。大阪駅から自動運転で会場近くの駐車場まで行ってもらい、その駐車場からパーク・アンド・ライドで会場に入るのも自動運転だと非常にありがたいのですが、既存の道をどうするのかという議論が当然生まれます。それについては万博協会だけで解決することは不可能ですので、大阪府、大阪市、国土交通省、運輸関係の行政機関の方々と話し合いをしているところです。

あと、待ち時間をゼロにということも、誘致のときに強く申しました。これもいま、二つの考え方で割れています。一つは、例えば5時32分に来てくださいということで、本当に待ち時間をなくし、いろいろなところを回っていただくという方法です。しかし、ユニバーサルスタジオやディズニーランドはあれだけ人が来ているのに、全体がそれ程には混んでおりません。それは、多くの人がかたまっても待っておられるスペースが随所にあるからです。会場全体がすし詰め状態にならないように考えると、待ってもらうのも一つの機能として非常に大事です。この場合、待っていただくけれど、待ち時間を感じさせないよう何かをやってもらうということが必要です。これにはVRやARなどいろいろな方策があると思います。ゲーム会社をはじめ様々な企業さんと話をしていますが、どのような手法がいいのかは検討中でございます。このように、ストレスを感じない「待ち時間」ということが、まず大きな要望としてあります。

また、空飛ぶタクシーというプランもあります。日本では安全規制などが非常に多くございますので、人を乗せるとなると難しいかもしれませんが、おそらく2023年か2024年頃には世界のどこかで、人が乗るドローンの商用化の動きが出てくると思います。けれども、

飛行時間は20分とか30分とかだと思います。いまのドローンは非常に高性能なのですが、一番の問題は長時間飛ばせないということです。日本では60分、90分、ドローンを飛ばそうということを検討している企業がありますが、空飛ぶタクシーが本当に実用化するためには、長時間連続してドローンを飛ばすことが大事です。おそらく2025年頃には、人を乗せて90分飛ばせるドローンの開発が世界的に課題になってくるのではないかと勝手に思っています。そのような課題に対しても、万博会場をうまく活用できないかとおっしゃってくださっている企業、団体もあって、いま議論しています。

さらに、各種データの有効活用ということもあります。先ほども申しましたが、例えば血糖値でも、時間帯や過ごし方で大きく変わるので、そうしたデータから、今後の生活においてどのような点に気をつければいいのか分かります。通信の世界では5Gとか6Gとかへの対応も議論しないといけないでしょう。エネルギーや環境の分野、防災などを含めた会場設営の分野などいろいろな分野で「未来社会の実験場」としての課題が出てくると思います。高度な移動システムの実証に関しては、会場の外の道まで実証の対象に含まれるかもしれません。日本の企業だけではなく、アジアや世界の企業も、「ぜひ夢洲のこの未来社会の実験場を活用したい」と思ってもらえるようにしていきたいと考えています。

現在の検討状況ですが、経済産業省が今年7月末に、125人の有識者へのヒアリングをベースに、「新しい時代の万博」の具体化に向けて」という報告書を発表しました。これまで説明したことと重複しますが、報告書のポイントとしては四つあります。

一つ目は、「SDGsの達成+**beyond**に向けて」です。**beyond**とは「その後」という意味です。SDGsの目標は2030年で、万博が開催される2025年からだとあと5年しかありません。先ほど申しましたSDGsの17の課題達成に加えて、次はどんな課題が出てくるのだろうか？というところまで議論する、それが「SDGsの達成+**beyond**に向けて」ということとございます。6人の専門家の方々に、125人の有識者を対象にヒアリングしてもらい、報告書をまとめていただきました。どの万博でも政府館をつくるのですが、日本政府館では正面から「SDGs 達成+**beyond**」をテーマにできないかと報告書は述べています。報告書では、国連とも共同して、万博期間中にSDGs+**beyond** 宣言を夢洲から発信できないかということも盛り込まれています。

二つ目の「未来社会の実験場にふさわしい会場計画」については、先ほど説明いたしましたが、今、いろいろなご意見を募集しています。応募方法についてはのちほどご説明いたします。協会のホームページにも載っています。

三つ目の「日本の飛躍の契機に！」とは、関西、大阪だけではなく日本全体に、ということがポイントです。われわれ協会としては、今は、西日本や関西の各地で、万博で何をしたいこうかと盛り上げているところですが、東京オリンピック・パラリンピックが終わったあたりから、東京のほうでも「次は万博だ」と考えていただければと思っています。もちろん東京をはじめさまざまな企業や団体からお話を聞いており、1週間前には東北の財界の方とお会いしてきました。東北も東北各地のお祭りなどなどいろいろ関西と結びつくというアイデアはあるけれど、いまは東京オリンピック・パラリンピックに専念しないといけないということでした。オリンピック・パラリンピックが終われば、「次は万博だ」と日本全体に発信していきたいと思っています。

四つ目の「多様な参加者による競争プロセス」に関して申しますと、今回のようにさまざまな方々のご意見を賜る機会を提供していただいて本当に感謝しております。こうした議論の場が他にもあれば、ぜひ参加させていただき、皆さまの話を聞く機会をさらに与えていただければと思いますし、われわれもそのような意見提供の場をどんどんつくっていききたいと考えております。

最初に70年万博についてお話しました。この万博は、われわれも先進国の仲間入りをしたのだという国威発揚の意味合いがあり、私を含めて皆さんの心の中に強く残っていると思います。これは今度の2025年の実施主体たる我々にとっては大変なプレッシャーですが、われわれは、70年万博に勝つぞというようなことではなく、違う観点から万博を捉えていかなければならないと思っています。

「成熟の時代」の万博のあり方として、モノを見せる場から、来場した人に参画してもらう場へということのをわれわれは根本に置いています。健康に良い歩き方を知りたいと思っている方には、歩き方についてアドバイスをしましょうというように、来場者に参画してもらうことを一番大きなこととして考えていきたいです。また、柱となるキーワードとしては、「中小企業」「若者」「おもしろい」など、100人いたら100通りのキーワードが出てくると思います。皆さんもご自分が考えるキーワードをぜひ教えていただけるとありがたいですし、そのように皆さまが万博を自分のことと思ってくくださるのが、万博の成功の道かと思っています。

今後の流れです。昨年11月23日に万博開催国が日本と決定して、今年の1月末に博覧会協会が設立されました。そして5月31日に博覧会協会が博覧会の実施主体として法律による指定を受け、もうすぐロゴマークを公募します。また、われわれはいま一般社団法人と

して活動していますが、公益社団法人として衣替えしようと考えています。このためには政府から公益的な役割を果たす団体として認められることが必要で、いまはそれに向けて取り組んでいるところです。それから12月には、BIE（博覧会国際事務局）という国際機関に対して登録申請書を、つまり大まかにどのような内容で万博を開催するのかという資料を提出する作業がございます。

それを来年6月のBIE総会で認めてもらいたいと思っています。登録申請書が認められて初めて、各国に博覧会に参加してくださいと言うことができます。ドバイ博が来年10月にありますが、このドバイ博を契機に、5年後の大阪・関西万博を幅広くPRしていきたいと考えます。

もう一つ、非常に大きな流れとして、来年の秋までに基本計画を策定しなければいけないということがあります。基本計画とは、会場計画のより精緻なものとなります。またテーマについても、より精度の高い内容を発表したいと思っています。

そのためには、この人に賭けようと思えるような若いプロデューサーを、皆さまの総意を得て決めていく必要がございます。おそらく1人ではなく、複数になると思います。愛知万博のときには3人の高名な方と、実務をしてくださる3人の計6人体制でしたが、そういう方々を選出し、彼らの意見を踏まえて、基本計画を策定していこうと考えております。

万博は6年後で、まだまだ先の話だと思われるかもしれませんが、意見をインプットするのはまさにいまだと思います。お手元の資料の中に、「大阪・関西万博が開催されます！」というチラシを入れさせていただきました。ぜひ協会のホームページにアクセスしていただいて、ご意見を賜ればと思います。私に直接言ってくださっても結構ですし、私どもを呼び出してくださいとも結構です。何かご意見がおありの方は、ぜひ発信していただきたく思います。

最後に、大阪・関西万博の成功の鍵は、若い人が握っていると考えています。70年万博のときは丹下健三さんと岡本太郎さんがおられて、そのお二人がリードされました。当時57歳だった丹下健三さん、59歳だった岡本太郎さんのお名前は、すでに世界的に非常に有名になっておられ、その下の世代である20～30代前半のコシノジュンコさんや横尾忠則さん、黒川紀章さんなどの方々が活躍され、そういう方々が次の世代をつくっていかれた。われわれもいまそういう方々を見出そうと頑張っております。見出したとしても、その方が万博には片手間にしか力を使えないということではいけません。相当部分の力を万博に傾注してくださる方を探しています。皆さまもそういうおもしろい、すごい方、かつ万博にその能力

を傾注してくださる方をご存じであれば、年齢や性別を問わず、ぜひぜひ教えていただければと思います。

拙い話を聞いていただいて、ありがとうございました。ご質問がおありでしたら、いつでも結構ですので、お尋ねいただければと思います。本日はこのような機会をいただき、本当にありがとうございました。

(拍手)

司会 森さま、ご講演まことにありがとうございました。それではここからは質疑応答のお時間とさせていただきます。せっかくの機会ですのでご質問のある方は挙手をお願いいたします。

質問者 A 最後に、万博が日本の起爆剤となり、日本全体の飛躍を、というスローガンがありました。それはもつともで、万博を承った業者だけではなくて、日本全体が利益を得るのだということだと思いますが、最初に提示されたデータに戻ると、大阪の人口は減っている、近畿圏全体が減っている、関西の経済力も落ちているという事実があります。私も会社を起こしてからこの 15 年間ほどの間、関西で行われているエコノミストの、「どうやって関西圏の経済を再興するか」という講義には二十回以上出席してきました。そこでは、彼らは露骨には言いませんが、再興は無理だという結論です。万博だけを見ると、私もそう思ったのです。もう一度大阪に万博を引き込めた。これに失敗したら大阪の再興はないだろうと私も思います。

そこで、2025 年以降、どれだけの人口増と、関西経済圏の活性化を頭の中に描いておられるのか、なんらかの構想があれば、それをお聞かせいただければありがたいです。

森 鋭い質問をありがとうございます。全部は答えられませんが、この 7 月から博覧会協会に来る前に、私は 2 年間、近畿経済産業局長を務めておりました。その前の 3 年ほどはグーグルやアップル、フェイスブックなどの GAFA のビジネスモデルにどう対応するかという仕事をしておりました。ヨーロッパが GAFA に対していろいろ規制をかけようとするとき、日本政府はどうするのかという際の責任者が私でした。そういう経験を踏まえて世界を見ると、GAFA に似たようなベンチャーが東南アジアで次第に現れつつあります。現在 GAFA は世界全体をカバーしようとしています、おそらく世界各地で GAFA に近いロー

カルな企業が勃興してくると思います。

東アジア、中国がこれから伸びていくと思います。日本でアジアに近いのは関西です。アクセスを考えると、関西国際空港が一番楽です。中国や東南アジアから関西国際空港に降り立って、そこから東京に行く方も出ています。関西経済がこれから勃興していく鍵は、関西がアジアの窓口になるということだと思っています。関西経済がアジアの窓口になるイメージ戦略の中で最も大きなものが万博です。東京をあまり意識せず、万博で直接アジア、世界と結びつくというイメージができると、アジアや世界も付いてきます。われわれ関西は絶対におもしろいですから。

関西こそがアジアの窓口だというイメージを、名実ともにつくりあげていくことが必要で、そのために 2025 年万博は非常に効果的ではないかと考えています。お答えの一部にしかなっておりませんが、そういう思いで 2025 年万博に取り組んでいます。

司会 ありがとうございます。ほかにご質問はございませんでしょうか。

質問者 B 会場建設費が総額 1250 億というお話がございました。これには、各国、各企業のパビリオンの建設費が含まれるのでしょうか。また、オリンピックであれば選手村がマンションになりますが、万博が終わったあとの施設の転用は考えておられるのでしょうか。

森 ご質問ありがとうございます。各国や企業がパビリオンを建てられる際には、自前で建設される場合と、実施主体たる博覧会協会の上物を建てて、その中を自由に使っていた場合と、大きく二つに分かれます。前者の場合の建設費は 1250 億円の中に入っておりません。後者の場合は、中を適宜変えてもいいというタイプ、展示物を置くだけといったタイプなど、いろいろカテゴリーがありますが、そのような上物を博覧会協会で作る費用は 1250 億円の中に入っています。

それから今後の話ですが、博覧会終了後にパビリオンを撤去する場合、パビリオンを何市の何々公園に置く、幼児施設に使うなど、70 年万博のときの前例がいくつかあります。そのようなかたちの転用は、今度の 2025 年でも十分考えられると思います。夢洲の跡地をどうするかについては、いま大阪市を中心に検討されていると聞いております。万博のパビリオンをどこまで残すのか、もしくはまったくの更地にするのか、それらはまだこれからの話かと思っています。

質問者 B できるだけ廃棄物が出ないよう、環境対応を目指してもらいたと思います。

司会 ありがとうございます。ほかにご質問のある方はいらっしゃいませんか。

質問者 C 最後に、大阪はおもしろいところだ、おもしろさを出すべきだとおっしゃられていましたが、少し説明が足りないと思いますので、ぜひこの会場のコンセプトの中に、大阪独特のおもしろさということを出し出していただけたらと思います。大阪のお祭り、例えば「だんじり」などをなんとか生かせれば、アジアの方も非常に興味をもたれると思います。

森 ありがとうございます。万博終了後の撤退の際に、廃棄物をなるべく少なくするという話は、次にご講演のカネカさんの取り組みなどを参考にさせていただきたく思います。また皆さまからいろいろアイデアをいただいて、この重要な課題を考えていきたいです。

大阪のおもしろさに関しては、私は関西人ですが、ぜひ、「おもしろい」、「おもしろい」ということを世界共通語にできればと思っております。先ほど申しましたように SDGs の考え方は本当に大事なのですが、万博会場自体が説教的になると具合が悪いと内心感じております。そういう大切な課題をできるだけ、おもしろく見せたい。そのために何ができるか。やはり子供が見て楽しいということが一番大事だと思いますので、それは心掛けていきたいと考えております。

お祭りの話がございましたが、やはり「いのち輝く」というコンセプトが一番発揮される場の一つがお祭りだと思います。各地のお祭りも万博でなんらかのかたちで再現できれば、または、万博会場でお祭り自体ができればと考えています。万博協会には大阪府や大阪市をはじめ関西各地の自治体からの出向者や様々な企業からの出向者の方がいて、みんなそうしたコンセプトの実現に燃えております。またアイデアとしていただければ、本当にありがたいと思います。

司会 ありがとうございます。それではお時間がまいりましたので、森さまへ、もう一度盛大な拍手をお送りくださいませ。

(拍手) 終了